

第62号
2022.6.30
発行
NPO 法人
ちば・生浜歴史調査会
電話
080-5387-2592

本会は15年目を迎えました (平成19年発足) 本会の目的 定款第3条より

この法人は、千葉地域の歴史民俗文化財の保護施策を支援し、歴史史料や民俗資料や史跡の保存と活用に関する事業を行い、老人から子供まで地域市民がその地域に根ざした歴史風土を認識して地域への関心を深め、地域に誇りと愛を持ち、それを次世代に伝えられるように、仲間作り・街づくりの推進、学術・文化の振興に寄与することを目的とする。

令和4年度行事予定

★マークの行事にご参加ください。

月	種類	日	曜・時刻	講座名	内 容
6	作業	10	金 9:30~	資料整理	山王の資料館にて ①
	講習	15	水 13:00~	古文書学習会★	浜野の御用留を読む
7	体験	9	土 9:30~	かごを編む★	荷ひもを利用してかごを編む
	会議	9	土 13:00~	全員会議	第2回 活動の情報交換等
	講習	20	水 13:00~	古文書学習会★	浜野の御用留を読む
8	作業	6	土 9:30~	資料整理	役場にて ②
	講習	17	水 13:00~	古文書学習会★	浜野の御用留を読む
9	講習	21	水 13:00~	古文書学習会★	浜野の御用留を読む
10	講演	1	土 9:30~	歴史講座①	石斧の話(講師・小林嵩・埋文センター)
	会議	15	土 10:00~	全員会議	第3回 活動の情報交換
	講習	19	水 13:00~	古文書学習会★	浜野の御用留を読む
11	講演	5	土 9:30~	歴史講座②★	浜野村の御用留(講師・会員・今井公子)
	講習	12	土 9:30~	布ぞうりづくり★	残りの布切れで草履を編む。
	講演	16	水 10:00~	生浜歴史講座(仮題)★	講師・久留島浩
	体験	12:30~	歴史散歩	浜野を歩く(仮題)★	(前国立歴史民俗博物館館長)
	作業	28	金 9:30~	資料整理	山王の資料館にて ③
1	講習	3	土 9:30~	折り紙講習★	干支を折る
2	作業	16	金 9:30~	資料整理	山王の資料館にて ④
	会議	20	火 10:00~	全員会議	第4回 役場大掃除
	講習	21	水 13:00~	古文書学習会★	浜野の御用留を読む
	講習	27	火 10:00~	書初めを習う★	書初め練習会
1	講習	18	水 13:00~	古文書学習会★	浜野の御用留を読む
2	講習	15	水 13:00~	古文書学習会★	浜野の御用留を読む
	作業	未		資料整理	日時場所未定 ⑤
3	作業	未		資料整理	日時場所未定 ⑥
	会議	4	土 9:30~	全員会議	第5回 活動の情報交換
	講習	15	火 13:00~	古文書学習会★	浜野の御用留を読む

左記の
行事参加に関する
問い合わせは
こちらまで。

火・木・土 9:30~16:00
電話 043-265-8816
携帯電話
080-5387-2592
(伝言可・ショートメール可)

または
oi2ha2ma
@softbank.ne.jp

今年度の活動は

① 展示事業【常設展示】…会場・旧生浜町役場庁舎…

「旧生浜町の産業と暮らし展」漁具、農具、生活用具に分類し、浜野町内会蔵品を展示。
旧生浜町歴代町長の肖像展示、生浜地区の明治以降の年表などの資料掲示。

【音声案内】【DVD放映】…「海苔の出来るまで」「お米のできるまで」の記録映像放映。

⑧ 講座・講演事業…歴史講座・歴史散歩・講習・講演 ⑨ 古文書学習会

⑩ 広報事業…地域誌発行 ⑪ 郷土の史資料の整理とまとめ

⑫ 旧生浜町役場庁舎管理委託…火木土曜日 9:00～16:30 公開

令和4年度 賛助会員紹介

ご継続・ご入会ありがとうございます。
この浄財は、主に民具類の修理・保存収
納のために使わせていただきます。
賛助会員には地域誌を一年分贈呈致します。

【賛助会員様】(芳名)

(浜野)石橋幹男様・小木曾和夫様・
叶親重信様・出口恵一様・永井紀
子様・並木昭様・太田圭右様・小
菅俊一様・久野栄一郎様・穴倉敏
子様・中島義則様・内河富美子様・
中村秀幸様・山田清志様・岩村衛様
(はまの台) 飯島正幸様
(塩田) 田村真理様
(南生実) 美山敏夫様・鶴田知子様
(生実) 今井吉彦様・大和久観浄様・
重俊院様・秋元禮子様・増田照子
様・田鎖かづ子様
(市川市) 小田京子様
(千葉寺) 菅崎量進様
(院内) 松井清子様
(寒川) 野老和夫様
(村田) 宇井正昭様
(黒砂) 田村敏孝様
(本町) 下向重留様
(山武郡) 坂井一任様
(四街道) 吉川綾子様

☆☆☆

「海と浜野の歴史」— 浜野囃子連 —

浜野は古くから海との関係が深く、海とともに歩んだ歴史が残る町です。

江戸時代の絵図には生実藩の浜御蔵(米蔵)、本行寺のほかに海の中に延びる『濤』(みお)が描かれています。

秋には、祭囃子と演芸(踊り・寸劇)が披露されていて、賑わっていたそうです

● 祭囃子…寸劇「浜辺」の研究論文…

清水 洋氏による寸劇の研究論文のその一部を転載させていただきます。

「浜野町に伝わる演芸についての考察」 清水 洋

『町内には濱野諏訪神社があり、毎年10月には祭礼が執り行われる。一日かけて神輿渡御があるが、町内のある地区では、仮設の舞台上で、祭囃子にあわせて、ひよっとこ等の面をかぶった数人がおもしろおかしい身振りで踊る、という演芸がある。

実はこの演芸は踊りばかりでなく、ちょっとした寸劇がある、ということを知ったのは、西暦2000年のことである。

「千葉市郷土芸能保存会」主催による「第29回見つめようふるさとの郷土芸能講演会」において、その劇が上演された。いつからかは不明だが、戦前から口伝で伝承されてきた20分足らずの「浜辺」*①と題された劇であり、戦後まもなく演じられて以降、約50年ぶりに演ぜられるというので、筆者はその一部始終をビデオカメラで記録した。』

*①…口伝であることから台詞や言い回しはその時の演者により違ってくるが話の筋は漁師と姫(若い女性)と老夫婦が登場する袖ヶ浦一体に伝わる海難話である。独特の言い回しの方言と身近な地元の場面設定で観客は盛り上がる。

(この研究論文はNPO法人ちば・生浜歴史調査会に保管されています)

● 浜野南町「獅子頭」の由来…浜野南町保管の獅子頭の箱書きより…

浜野南町には立派な「獅子頭」が保管され秋のお祭りの時は披露されてきた。

『本行寺日泰上人の品川から浜村(浜野)に渡る時の海難の話はあまりにも有名で、海難救助のお寺として信仰極めて厚く、その信者は七里法華地域は勿論、海で生活する船方衆などで結ばれる講中(こうじゅう)*②は内湾を伝わり遠く江戸方面にまで達していた。



本行寺日泰上人の品川の浜村(浜野)にありし海難救助の講中(こうじゅう)は、余りにも有名で、海難救助のお寺として信仰極めて厚く、その信者は七里法華地域は勿論、海で生活する船方衆などで結ばれる講中(こうじゅう)は、江戸日本橋小網町には大提灯などを寄進する多くの信者をもつ講中があり、たまたま浜野南町(当時南町には海漕? 回漕…船舶によって運送する事…従する者が多くいた)の住人が小網町の住人と懇(ねんごろ)となり、作者も製作年代も不詳ではあるが、厄除けとして霊験あらたかという獅子頭を譲り受けてきた。それ以来浜野では悪疫が流行すると若衆がこれをかむり、太鼓を打ち鳴らし戸毎に人々の頭をくわえ、又患者のある家に対しては土足のまま、寝ている病人や、布団・衣類等をくわえて病魔を退散させたという。

江戸日本橋小網町には大提灯などを寄進する多くの信者をもつ講中があり、たまたま浜野南町(当時南町には海漕? 回漕…船舶によって運送する事…従する者が多くいた)の住人が小網町の住人と懇(ねんごろ)となり、作者も製作年代も不詳ではあるが、厄除けとして霊験あらたかという獅子頭を譲り受けてきた。

それ以来浜野では悪疫が流行すると若衆がこれをかむり、太鼓を打ち鳴らし戸毎に人々の頭をくわえ、又患者のある家に対しては土足のまま、寝ている病人や、布団・衣類等をくわえて病魔を退散させたという。

この獅子頭は南町の手に渡ってからおよそ二百有余年連綿として伝承されている。』

昭和五十八年九月吉日 記(資料提供者・白井三郎) 保管箱製作者 鹿野誠

*②…広く信仰上の志を同じくするものの結合集団の構成員。

● 江戸日本橋小網町との交流から・・・

明治時代には浜野南町には回漕…船舶によって運送する事…に従する者が多くいた。その者たちは小網町の住人の影響もあり「俺たちも囃子や獅子舞をやりたい」という機運が盛り上がったようだ。

そこで当時「明治丸」という船を所有し交易をして羽振りの良かった「石橋家」と乾燥魚介類の交易をしていた「斉藤家」、石炭の交易をしていた「飯豊家」のバックアップで囃子や獅子舞ができるようになった。

<石橋幸三郎氏の聞き取りから>

● お囃子の道具類消失・・・

お囃子の道具類が、火事(昭和22年)により消滅されてしまった。昭和53年に、当時を知る年

配者の有志が往時の獅子舞や祭囃子を復活させようと立ち上がる、

●再興させようと有志(60~70才)が「浜野囃子連」を結成した。

その趣意書や組織や金銭面の確たる資料は現在手許では確認できませんが、千葉市の親子三代夏祭りにも千葉の郷土芸能の発表会などで披露した折の写真は現存している。

千葉市役所のホームページ「千葉市の民俗芸能」にも掲載されている。

浜野町秋祭りでお神輿と共にお囃子を披露。(2002年10月13日撮影)



●葛西囃子(かさいばやし)の流れをくむ「浜野囃子連」

祭りの際に演奏される音楽を祭囃子という。この名称は戦後つけられたもので昔から「お囃子」と称されていたもの。そもそもは尊敬する神様の和歌に合わせて音律を工夫創作し、「和歌ばやし」と称し、改良されながら天下泰平国家安全の奉納囃子として江戸市中に広まっていった。その後各地の祭礼に用いられ、伝えられていったもの。

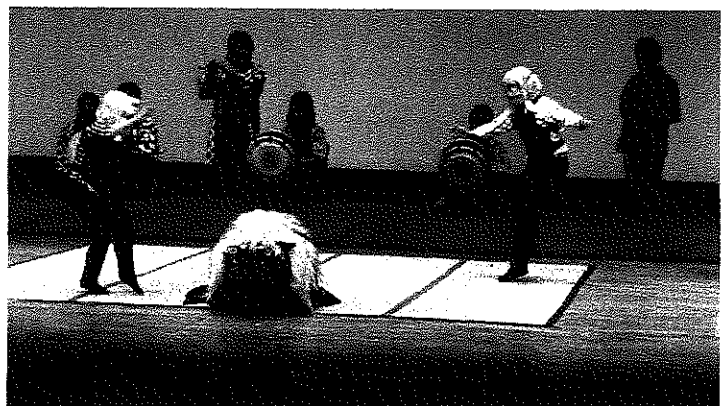
葛西囃子は江戸祭り囃子の代表的存在とされ、山車(だし)囃子として奉仕する事を常としている。

浜野の祭囃子・・・千葉市ホームページより転載

●浜野のお囃子の伝承

30年前から再興されたこのお囃子を代々引き継いできたものの、再興当時の方々は引退・逝去されている。

「祭り太鼓」として浜野町盆踊り大会で披露されている。「お囃子」は浜野諏訪神社奉賛会との連携により秋祭りで披露、いずれもコロナ後の再開を楽しみにしている浜野の民俗芸能のひとつである。



・・・この記事に関する情報をお寄せください... <白井・記>

参加者募集！体験講座「かごを編む」

日時 令和4年7月9日(土)

9:30~11:30

参加費 300円

持ち物 はさみ・ボンド・洗濯ばさみ 10 個程

会場 浜野会館(中央区浜野町1242)

申込期限 令和4年7月2日(土)

申込方法 電話でお申し込みください。

定員 先着20名